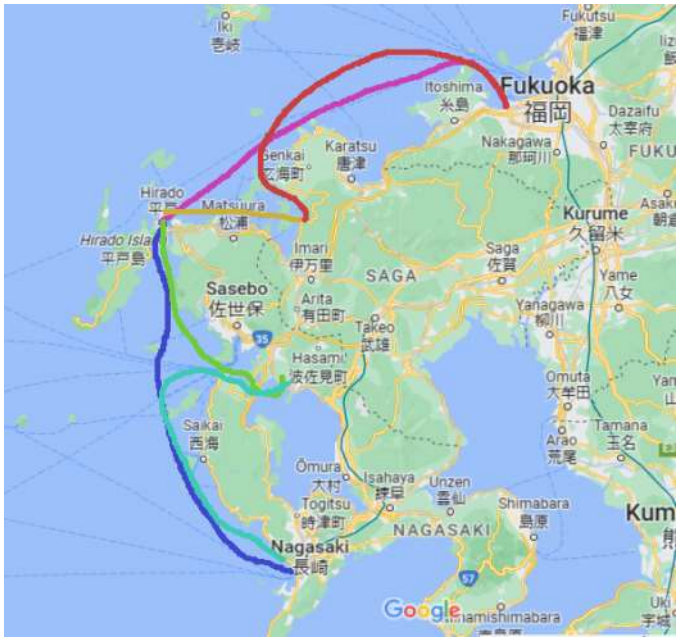
2023 年 5 月 5 日
道山　元

家族の GW はハウステンボス（HTB）マリーナで集合

今回の GW 前半の単独クルージングの舞台は、長崎サンセットマリーナを出港して平戸港（長崎）、小戸ヨットハーバー（福岡）、Sea Grand（長崎県のグランピング施設）、平戸港、長崎ハウステンボス（HTB）マリーナまで。そして GW 後半の家族クルージングの舞台は、HTB マリーナから針尾の瀬戸を経由して、長崎サンセットマリーナまで。全 7 日間、約 220 マイルを単独、そして家族と共に九州北西沿岸を満喫しました。全航程は次のとおり。

4 月 27 日(木)0730 サンセット単独出港　1550 平戸瀬戸　1630 平戸入港　45 マイル(M)
4 月 28 日（金）0630 平戸出港　1430 博多小戸ヨットハーバー入港　50M
4 月 29 日（土）小戸ヨットハーバー（避泊）
4 月 30 日（日）1000 小戸ヨットハーバー出港　1800　Sea Grand（佐賀）　35M
5 月　1 日（月）0930　Sea Grand 出港　1200 平戸瀬戸　1230 平戸入港　25M
5 月　2 日（火）0900 平戸出港　1530 針尾瀬戸　1630HTB 入港 30M　家族とジョイン
5 月　3 日（水）0930HTB 出港　1015 針尾瀬戸　1800 サンセット入港 35M



最後のレグのみ家族と一緒にクルージング

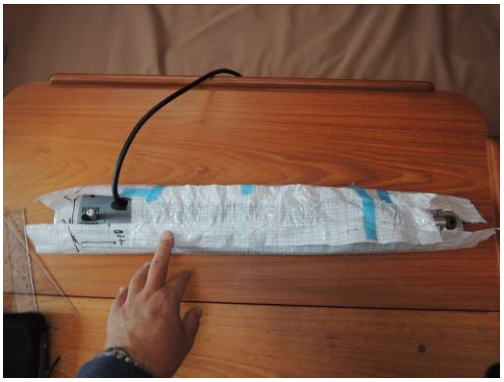
〇最後の準備

3 月末から 4 月末にかけて、燃料フィルターの交換、船内のニス塗り替えを完了させ、最後にマストチェックをしたところ、なんとスプレッダーエンドからサイドステイが外れかかっていることが判明。急遽、家内にマスト登りを手伝ってもらい修理を実施。

補修せずに出港していれば、間違いなくディスマスト。手伝ってくれた家内に感謝。

マストに登る

そして、オートパイロットのカバー製作。雨の日にオートパイロットが漏水し、痛い思いをしたので、手縫いで製作すること。生地を買ってきて、型紙を起こして、最終的には 29 日の小戸ヨットハーバーでの荒天避泊中に完成させた。



型紙を作って

生地を切り出す

○1 日目　4 月 27 日（木）長崎サンセットマリーナから平戸港　45 マイル

仕事の都合で休暇が取れるも、家族は小学校の授業があるということで、今回の GW クルージングは単独でその前半を楽しむことに。07：30 にサンセットマリーナを出港し、平戸の瀬戸が緩んだ 15：50 に同瀬戸を通過。16：30 平戸港に入港した。航程は 45 マイル。

出港後、遠藤周作の小説「沈黙」で有名な外海の隠れキリシタン部落を右手に望みながら、西海国定公園の海岸線や大角力（おおずもう）岩を楽しむ。地域に貢献したフランス人神父を記念し、フランス国旗を模した青、白、赤のトリコロールカラーの陸橋も綺麗だった。

外海の風景

大角力（おおずもう）

佐世保沖を航過し、西風 8 ノットの中、リーチングで快走。途中、双眼鏡の目を凝らして、行き交うヨットにご挨拶しながら進むと、右手に 16 世紀にポルトガル船が帆を休めた川内湾、目の前に真っ赤な平戸大橋が見えてきた。中学生時代に修学旅行で初めて渡った平戸大橋。当時のバス車内から撮影した懐かしい風景、同級生との一コマが目に浮かんだ。

佐世保沖を進む

平戸の瀬戸が見えてきた

左手に平戸城を望み、右手にオランダ商館を見ながら平戸港へ入ると、大阪からやってきた 50 フィートのヨットと神奈川からやってきた 40 フィートのカタマランが先客としてポンツーンに係留中だった。

左手に平戸城、右手にオランダ商館を望みながら平戸港へ入港

ポンツーンにいたヨットマンにご厚意で舫いをとってもらい、無事に入港。直ぐに、ポンツーンの目の前に観光案内書で入港の手続きを済ませた。受付の方に 1 晩分の係船料を伺うと、なんと無料とのこと。有難い限り。近くの温泉旅館を 2 軒紹介頂いた。

平戸港のポンツーンに左舷付け

さっそく平戸の町を観光。時間が止まったような商店街は、まさに歴史的な雰囲気。その中でも一際目を惹くのは「東船具店」。中に入ると、そこは正に男のパラダイス。東京銀座の三越デパートでも手に入らない船具がギッシリ。日頃のうっ憤を晴らす様に、意を決して SOLAS の反射テープを 2 メートル購入。2,100 円なり。最高の買い物ができた。

平戸の街並み。タイムスリップしたかのよう

平戸の街並みと、正真正銘の男のデパート「東船具店」

その後、レトロな街並みを抜け、江戸時代に建設されたオランダ商館を火災から守るために築造されたオランダ坂を登り、温泉旅館「旗松亭」へ。屋上の天井露天風呂から平戸大橋、そして平戸城や平戸の港を一望。800 円で楽しめる絶景だった。

オランダ坂を登ると

平戸の町を一望できる平戸温泉「旗松亭」を楽しめる

この日は「東船具店」さんに紹介頂いた地元の食堂「なんばん」へ。アジフライ定食を美味しくいただいた。840 円なり。

オランダ商館（復路で訪問）

食堂「なんばん」のアジフライ

食後、帰船し、さっそく SOLAS の反射テープを救命浮環に貼り付け、更なる安全を手に入れたという、この上もない幸せに浸っていた。すると、50 フィートのヨットのクルーより、立派なイカ刺の差入れのお誘いが。長崎土産「クルス」を手に持って、さっそく豪華な大型ヨットへお邪魔することに。イカの刺身と交換し、自分のヨットに持ち帰って、蚊取り線香を焚きながら、お気に入りの発泡酒を片手に一人、更なる幸せに浸った。

○2 日目　4 月 28 日（金）平戸から博多小戸ヨットハーバー　50 マイル

歴史の町平戸を瀬戸の緩潮時に合わせて 06：30 に出港。玄海原発を右手に望み、イカ漁で有名な呼子漁港沖を抜け、玄海島と糸島半島の間を通過し、14：30 に博多小戸ヨットハーバーへ入港。

出港前の風景と、朝焼けの平戸瀬戸

途中、呼子の岬は春の新緑に揺れ、放牧された牛たちがノンビリと草を食んでいた。そして、加山雄三が嘗て歌った「緑の草原～♪」という歌詞が、頭の名でリフレーン。

新緑の呼子沖、岬を牛がノンビリ歩き回る

午後になり 13：00 頃、博多湾の入り口である玄海島を航過。2013 年に巡視船「やしま」で勤務して以来の博多湾に入る。14：30 過ぎ、小戸ヨットハーバーへ電話して、入港時刻

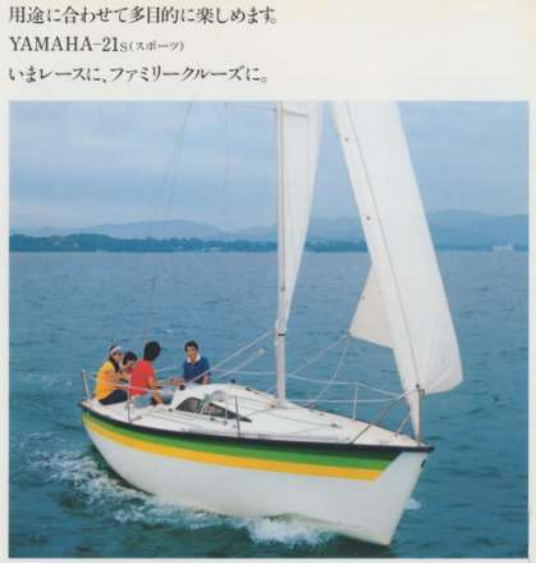
が 14 : 30 であることを告げると、係員の方が「舫い取りに来ます」とのこと。流石、公営。電話での受け答えから、逆にこちらが緊張したほどであった。

小戸ヨットハーバーに入る。無事、ゲストバースに入港（24 時間、2,900 円なり）

数年前、幼い息子 2 人と家内を連れ、母を伴って陸路でフラリと訪問した小戸ヨットハーバーだったが、私にとっては相当な思い入れがある。

保安大学校時代の 1998 年、西日本インカレで 470 をトラックに積んで訪問した思い出、そのレースで「スナイプ番長」と呼ばれる白石潤一郎氏と風上・風下でケースを起こした。レース後、怒った白石氏が殴り込みに来て、私が被っていた海保ヘルメットが吹っ飛んだこと。

さらに遡った 1980 年ごろ、母親が船舶免許を熊本県の天草にあるヤマハのマリーナで取得し、その紹介もあって小戸の西日本ヨットセールスに展示されていたヨット「ヤマハ 21S」を家族で見に来た情景（船体価格 190 万＋セイルなどの艤装品 50 万と、あまりの高額さに、購入は到底不可能と退散）。



当時のカタログ（幼少時代、穴が開くほど眺めた）

その後の 1989 年、何かのきっかけでオークランド博多レースを完走した「Future Shock（エリオット 17M）」と「飛梅（高井 49）」を家族と見に来て、その大きさに圧倒されたこと。その時、近くに停泊していた 25 フィートくらいのヨットに同級生くらいの子供が家族で乗っていて、そのリッチな一家に憧れたこと。

ついでに当時、親父が事業を始める直前であり、将来、その事業が上手くいけば、ハーバーのスロープに繋がれていたカタマラン（マルダイブ 32）が手に入るのだろうと、淡い夢を見たこと。

自分が幼い頃、親子 3 人で歩いた小戸公園の海岸線を望む

心から憧れたヨットハーバー

翌日は前線通過の荒天予想だったで、その晩は腰を据えて準備。が、夜中、風速 15 メートルを超える西風で、ハーバー内に波が入り、ヨットとポンツーンの間に入れたフェンダーの調整や確認で数時間起きに見回ることに。致し方ないが、保船に留意ということであった。

〇3 日目　4 月 29 日　小戸ヨットハーバー（避泊）

この日は終日雨。前述したオートパイロットの雨除けカバーを手縫いしながら、どうに

か完成させた一日となった。そのような中、大学生が乗ったディンギーは沖へと練習へ。

雨でも頑張る大学生

新入部員はいつでも歓迎（小戸ヨットハーバー前にて）

○4 日目　4 月 30 日（日）小戸ヨットハーバーから Sea Grand（佐賀）　35 マイル

この日、佐賀県の浦田造船の社長さん経営するグランピング施設 Sea Grand（長崎県松浦市福島町）へ。何時の日かヨットでの訪問を実現しようと、予てから計画していた。

朝 08：30 にハーバーを徒歩で出発、徒歩で周辺を散策し、至近のコインランドリーで溜まった洗濯物の洗濯を済ませた。ハーバーに戻って 100 円コインシャワーでさっぱり。

朝 10：00 に小戸ヨットハーバーを出港。途中、博多湾の能古島沖で総員退船部署訓練中だった巡視船「むろみ」に遭遇したことから、長崎土産をボートフックに引っ掛けて手渡した。昔の部下に、多少は喜んでもらえたかと。

能古島沖で年度当初の訓練中だった巡視船「むろみ」

往路、順風だった玄界灘だったが、復路は逆風となり、ずっと機走。晴天で風速 4 メートル程度と、絶好の帆走日和なるも残念。本当は風に逆らいたくないのだが、限りのある休日。予定の目的地もあるので、致し方なし。途中、博多で購入した饅頭を満喫。日本茶と和菓子を洋船（ヨット）で頂くことができるなど、なんともオツなものです

凪の玄界灘と千鳥饅頭

その後、呼子を超えると風速は 10 メートル弱まで上がり、逆風の中、鷹島（佐賀県）の東側へ針路を変えた。暫くすると、美しい「鷹島肥前大橋」が見えてきた。初めての伊万里湾、玄海国定公園への進出。心が躍る。鷹島肥前大橋を帆走で通過すると、今度は両岸に緑の新緑が光る湾に吸い込まれた。縫うような狭い水路を走り、玄海国定公園の「いろは島」を抜けると、そこは正に海好きにとってのヘブン。グランピング施設を備えた造船所兼マリーナが見えてきた。

肥前大橋を通過し、玄海国定公園へ入る

福島（右側）沿いの狭い水路を抜けると、風光明媚な多島海「いろは島」沖に入る

グランピング施設 Sea Grand に到着

玄海国定公園（□内）と、Sea Grand のある福島周辺（航程：青線）

Sea Grand を経営する「浦田造船」の歴史は古い。350 年続く造船所の今の社長さん浦田文明さんは 14 代目。長さ 80 フィートの近海区域を航行できるパワーボートを製造している。

お付き合いは、2016 年当時、私が外務省出向中であったころに始まる。もう時効であろう話だが、任国であった中東の海上保安庁長官から「日本製の高速警備艇を紹介して欲しい。速力は 60 ノット、レンジは 500 海里で」と相談があり、帰国休暇を使って日本の造船所を探し回り、行きついた先が佐賀県の「浦田造船所」であった。（有）浦田造船所　FRP 高速船・遊漁船・プレジャーボート・クルーザーの製造・販売（urata-zousen.com）

突然アポ入れをして、ほぼ、飛び込み同然で造船所を訪問した私に対し、当初、浦田社長は訝しげに感じたであろうけれども、私としては必死であり、協力を頼み込んだ。

結果、浦田さんに外務省ミッションとして中東まで同行して頂き、当地の沿岸警備隊長官と高速警備艇の製造や補修について議論できた。輸入艇に頼るしかない中東の沿岸警備隊は、新造船の調達には困らないが、その後の補修やエンジンのメンテナンスに苦労していた。能力あるディーラーが現地にないことも、その要因の一つであった。

結果的に、沿岸警備隊側の都合や現地ディーラーの障害で話は流れた。が、その後も家族共々、国内外のボートショーにご一緒したり、時折、浦田さんの造船所へ訪問できたりと、お付き合いが現在も続いている。有難い限り。

風光明媚な玄海国定公園の中のコテージ

桟橋もコテージも社長さんの手作り

ゴールデンウイーク中、バーベキュー付きのコテージは満室

最近では、米国の調査ヨット Iron Lady 号（鉄製：68 フィート）が昨年 11 月から、Sea Grand に隣接するヤードでメンテナンスしており、これへのお手伝いもできた。I 号は無事、5 月 4 日にメンテナンスが終了し、博多のマリノアマリーナ経由で、5 月末からのアリュー

シャン列島での火山・生態系などの調査に向かった。現地では世界自然保護基金（パンダマークの WWF）関連のミッションがあるそうだ。

入港後、浦田さんと、奥方、浦田さんの息子さん（専務）に私のヨットへ訪問頂き、皆さんから「ヨットって意外にキャビンが広いのね―」とのコメントを頂いた。そうなんです。ヨットって、見た目以上にキャビンは居住性があるのです。

この日の夜は、浦田さんと I 号の船長（米国人）、乗組員（ロシア人）との会食が夜遅くまで続いた。まさに、各国に跨る外交問題を超えての国際交流であった。

鏡のような水面

○5 日目　5 月 1 日（月）Sea Grand から平戸港　25M

朝、一寸の揺れもない鏡のような水面に浮かぶヨットの中で目を覚まし、造船所の大きなゲートが開く音と共にクウォーターバースから起き上がった。

朝食を済ませ、久しぶりに会った浦田さんと、その息子さんとの再会の余韻に浸りながら、09：30 に出港。翌日、HTB にて家族とジョインするために＆平戸瀬戸の潮流を勘案し、などと理由をつけ、結局は軽い二日酔いということで、平戸へ再び入港することにした。航程は 25 マイル。

朝、Sea Grand に隣接するヤードに陸起きされた I 号に手を振る。今後も、国際貢献と国際交流の場所として、外国からの訪問者が浦田さんのところに多く訪問してくれることを願うところ。その後、美しい玄海国定公園内の水路を独り占めしながら、平戸港へ向かう。

水面下は荒天でも走れる Deep V、水線以上は豪華なキャビンクルーザーが生まれる場所

綺麗になった Iron Lady 号の雄姿と、朝の Sea Grand の眺め

湖のような玄海国定公園、多島海を進む

平戸には HTB マリーナからやってきたヨットが先客としてポンツーンに停泊していた。古い艇であるが、綺麗に整備されており、オーナーの愛情を感じた。入港後、直ぐに目の前の観光案内所で停泊の手続きを済ませ、再び、「東船具店」を散策。至る所にお宝品があ

る。この日は1600年代に建てられ、キリスト教弾圧のため1年で解体されたオランダ東インド会社の商館（再建）を見学。その後、歩いて10分、平戸瀬戸を水面と略同じ高さから一望できる海上露天風呂で入浴。800円なり。近くのスーパーで氷を購入し、船に戻ると、先客であったHTBマリーナ所属のヨットのオーナーがいらっしゃった。しばし、ヨット談義を楽しみ、その日も独り、静かな平戸港内に浮かぶヨットで、蚊取り線香の香りを楽しみながら熟睡した。

長崎出島ができるまで、日本の玄関であった

○6日目　5月2日（火）平戸から針尾瀬戸を経由し、HTBへ 30マイル

この日はクルージングのクライマックス。針尾の瀬戸を通過して、家族とハウステンボスでジョイン。09：00に平戸を出港。途中、昨日、平戸で会合したHTBマリーナ所属のヨットと佐世保沖でランデブー。その後、一緒に15：30針尾瀬戸を通過。16：30HTBに入港した。距離は30マイル。

HTBマリーナはかつて、夏のヨットレースで賑わった。現在ではゲストバースの関係から、レースの開催を見送っている。このマリーナを家族とのミーティングポイントとして選択した理由は複数ある。まず、家族の住む長崎市内から直通バスがあり便利であること。2人の息子が小学校から下校し、その後、バスに揺られたとしても、所要時間は1時間程度と楽チンであること。背伸びすれば、ゴールデンウイークの家族サービスとして、夕方のハウステンボスを楽しめること。

平戸出港後、佐世保九十九島沖まで風は弱く、機走であった。しかし、九十九島沖を超えたあたりから北風が入り、4ノット程度で気持ち良く佐世保港口までセーリングできた。運よく丁度、針尾瀬戸の転流時刻に差し掛かり、難なく瀬戸を通過。平戸で出会ったヨットに先導頂いたこともあり、楽に針尾瀬戸を超えることができた。そして、なんともタイミング良く、家族がHTBのバス停に到着するとほぼ同時に、私もマリーナへ入港できた。

地元艇に先導して頂き、針尾瀬戸を南航する

HTB マリーナが見えてきた

雰囲気が良い

家族は無事に HTB のバス停についた。が、マリーナまでのアクセス方法は不明。なんでもバス停からタクシーに乗って、マリーナ玄関へアクセスできるそうなのだが、肝心のタクシーが GW で捕まらない。結果的に、家族は HTB のアフター3 パスポートを購入し、HTB へ入場。園内のバスを利用してマリーナへ向かってもらうことにした。

アフター3 パスポートは、家族で合計 16,600 円と結構な額であったが、家内はヨットでの泊り道具（息子 2 名分他）や食料品を抱えての移動であり、クタクタであったこともあり、園内の移動バスなしではマリーナへのアクセスは不可能であった。それよりも、家族の GW イベントとして、夕方からの HTB 散策は最高であり、出費の甲斐は十分にあった。

夕暮れの日を浴びて綺麗に咲き誇る多数のバラ。園内を一望できる観覧車、綺麗な水路の遊覧。レンガ造りの建物群と風車が回る花畑。子供向けのパビリオン。夜のライトアップも美しく、3 階建てのメリーゴーランドや閉園間際のプロジェクションマッピングまで楽しめた。ついでに閉園後の園内レストランにて、宿泊客しか楽しめないような雰囲気もあり、家族に「好き放題注文して良いよ」と、大見得を張ることもできた。自分もビールとソーセージで満喫。係留費は 1 泊 3,300 円と園内のホテル代と比肩しても格安。宿泊費は 10 分の 1 以下の費用だろう。お得に、そして GW らしく、家族で夜まで楽しむことができた。

春のバラ園

園内の夜景

○7 日目　5 月 3 日　HTB から針尾瀬戸を経由して、サンセットマリーナへ 35M

GW クルージング最終日、朝 7 時ごろに起床。家族皆でマリーナ内のシャワーを浴び、さっぱりした後、HTB 園内を散策した。園内のホテルに宿泊しているわけでもないのに、こんなプライビレッジをエンジョイできるのも、マリーナにビジター係留しているから。

新鮮な空気を吸いながら、新緑の美しいアジサイや木立に囲まれた HTB 城を見学。欧州の本物の城に似せた建物は、美しく朝の木漏れ日の中に建っており、確かに本物の城ではないものの、その建設から日頃の管理まで、相当に労力がかかるだろうと感じた。確かに入場料は高額なるも、海外旅行などもってのほかである我が家にとって、訪問の価値があり、そして、貴重な朝の一瞬であった。

朝の散歩風景

朝の新鮮な緑

朝の散歩後、マリーナに戻ると、数杯のヨットが出港準備を始めていた。針尾瀬戸の転

流時刻に合わせて出港していくようだ。我が家はまず、腹ごしらえ。HTB の綺麗な建物をバックにコックピットで朝食をとる。そして、09：30 に出港、10：00 に針尾瀬戸に入る。そうしたところ、佐世保保安部の CL 巡視艇「あいかぜ」が同航で追い抜いてきた。エスコートしてもらっているわけではないが、狭水道で海保の巡視艇が付いていてくれるだけでも安心感があった。

当然であるが途中、針尾送信所のアンテナの歴史や、佐世保の歴史、LCAC を有する米軍基地の説明もした。

家族集合＆長男の操船で出港

HTB を出港すると、針尾瀬戸で巡視艇が追い越していった

この日の航程は 35 マイル。佐世保の港口を抜けると南風が 5 メートル程度、吹いていた。気持ちよくクローズホールドで南下するも、家族は寝不足もあり船酔い気味。距離を短縮するために機走に切り替え、サンセットマリーナを目指した。そして 18：00 母港であるサンセットマリーナに到着した。マリーナでシャワーを浴びで、キャビンで夕食をとり、船中泊をしたことは、言うまでもない。

○最後に

今年の GW の過ごし方は、これまでとは随分と中身が異なった。まず、ほとんど単独で長い時間のクルージングができたこと。ヨットが趣味という割に、就職後の 20 数年来の全国転勤で、自分のヨットに接する機会は年に 2～3 度に限られた。帰省中のクルージングも日帰り程度で、泊まり込みでどこかに行くなど、殆どなかった。したがって、長崎転勤となり、手元にヨットを保管できるようになって初めて、ヨットが趣味らしい趣味となった。

他方で、現役世代が趣味を持つことなど、本当に贅沢にも感じた。寄港地で出会うヨットマンは全てリタイア組。60 代から 70 代の方ばかり。ましてや、家族連れなど 1 組も居ない。平戸で出会った HTB マリーナ所属のヨットマンは「家族をヨットでクルージングに誘える父親は、貴重で、グレートだ」とおっしゃっていた。確かにそのとおりかもしれない。しかし同時に、本当に日本の社会がそれでいいのかと、疑問にも感じた。

今後、少子化が進み、縮小する日本社会が将来、到来するであろう。もしかすると、若い世代が親の世代の財産を食いつぶしながら生きる時代になるかもしれない。その時、私の 2 人の息子には、昔を思い出し、家族でクルージングしたことを是非、思い出して欲しい。そして、豊かでスマートな国（米国の社会学者 Thomas L. Friedman は 2007 年の著書 The World is Flat で「先進国 Developed County をいう言葉は今やもうない。Smart Country かそうでない国かだ」と主張）の同年代の輩と、ヨットでのクルージングやセーリングの話題を契機に交流を深め、同時に切磋琢磨し、豊かな暮らしを実現して欲しいと思った。

次回の夏のクルージングは、息子らの希望である福江と宇久島、そして、私の希望である壱岐島、そして再び、Sea Grand あたりを狙いたいと思う。

何時までも、こんな家族で居たい